

グリーンカーテンでエコと快適職場を両立 ～OSHMS を活用した職場環境改善による参加型改善活動の推進～		
ガイドラインステップ	キーワード (6 つ以内)	・OSHMS ・参加型安全衛生活動 ・メンタルヘルス対策 ・ストレスリスクアセスメント ・自主的活動 ・エコ
1～8・12～16		
改善・取組みの背景と課題	<p>地方自治体の O 市では、部署ごとに安全衛生委員会を設置し、安全衛生活動を行ってきたが、労働災害発生件数が年間 60 件程度で推移し、安全衛生活動方法の見直しが必要であると考えられた。また、メンタルヘルス不調者も年々増加しメンタルヘルス対策も課題となっていた。そこで、安全衛生委員会で OSHMS を導入することが決定され、メンタルヘルスを含めた総合的な安全衛生対策を進めることとなり、3 年計画で OSHMS 導入作業を進めた。第1ステップは、安全衛生関係者を対象に、OSHMS 導入研修を実施した。第2ステップでは、職場での自主的な安全衛生活動の定着を目指し、リスクアセスメント(RA)研修や、職場環境改善を通じたストレス対策研修を実施した。第3ステップでは部署ごとの安全衛生上の改善目標を設定し、RA やストレス対策を継続した。第4ステップでは OSHMS を運用し、各部署の課題の改善状況を確認しながら、安全衛生活動を継続的に進めている。</p>	
改善・取組みの着眼点	<p>安全衛生活動を進めるに当たっては以下の点に着目した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① それぞれの職場のリスクに対応できる安全衛生対策ツールを、当事者が参加し、RA の考え方を取り入れながら、当事者自身の手で作成する。 ② 職場のストレス要因も RA の対象とする。 ③ 職場環境改善については、安全面だけでなく、改善に伴う心理社会的な効果も念頭に置きながら改善活動を行う。 ④ 施設・設備の問題については、低コストでできる改善策を労働者参加のもと検討する。 ⑤ エコと快適職場を両立する視点で改善方法を検討する。 ⑥ OSHMS を活用し、自主的で継続的な安全衛生活動の定着を目指す。 ⑦ 良好・改善事例集を作成し、全職場に活動を水平展開する。 	
改善・取組みの概要	<p>RA 研修と平行し、快適で働きやすい職場環境の実現を目指して職場環境改善を通じたストレス対策を進めるためのグループリーダー養成研修を実施し、メンタルヘルスアクションチェックリストによる職場のストレス要因の把握や改善方法について実習した。各職場ではグループリーダーが中心となり、職場のストレス対策を実施し、その成果を良好事例・改善事例シートにまとめて提出してもらい、優秀な事例を表彰することとした。また、活動が継続するよう各部署で目標を定めながら 1 年サイクルで活動を行うこととしている。このような活動を通して 1 つの部署では、夏場の節電による室温や湿度の上昇から不快感が訴えられ、エコ(節電)と室内の温熱環境の改善を両立すべく、グリーンカーテンを活用した対策が提案され、6 月から 9 月までの 4 ヶ月間「エコ・改善・いきいきプロジェクト」が取り組まれた。具体的には①3 階建て建物の南側面 2/3 にゴーヤとヘチマを育成、②室内温熱指標の連日測定、③スタッフの心理社会的効果の測定などを行った。</p>	

<p>写真・図表・イラスト</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>スタッフのPOMSの変化</p> <p>スタッフのソーシャルキャピタルとワークエンゲイジメントの変化</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グリーンカーテンによる WBGT 値の変化と、プロジェクトスタッフの気分 (POMS) やソーシャルキャピタル、ワークエンゲイジメントの変化</p> </div> </div>
<p>効果</p>	<p>プロジェクトの実施期間(H24年6～9月)の消費電力(22,764kw)をH22年同期間(26,384kw)と比較すると、13.7%少なく、H23年同期間(24,228kw)と比較すると6.0%少なかった。また、室内温熱環境をWBGT値で比較すると、グリーンカーテンを設置した部屋は、何も対策をしない部屋に比べて平均で1.7℃低く、空調の設定温度を高くした節電下でも快適な作業環境を保つことができた。また、エコ・改善・いきいきプロジェクトを進めるための会議や、植付・追肥作業・収穫時などに合わせてスタッフを対象に質問紙調査を実施したところ、POMSはグリーンカーテンの成長に伴いネガティブな気分が低下しポジティブな気分が増加した。また、ソーシャルキャピタルやワークエンゲイジメントも回を増すごとに向上し、スタッフの心理社会的な効果も見られた。</p>
<p>このGPSの経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>近年では猛暑に加え夏場の節電目標のため、職場の温熱環境が悪化していたが、建物の南側にグリーンカーテンを設置することで、節電と快適な職場環境の両方を実現できた。また、グリーンカーテンの育成などスタッフ全員で協力しながら取り組むことで、職場の一体感が生まれるとともに、ワークエンゲイジメントが向上するなど、エコ・改善・いきいきプロジェクトに参加することによるスタッフへの心理社会的な好影響も得ることができた。</p>
<p>参考資料</p>	<p>1) 渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 鶴田由紀子, 伊藤昭好, 原 邦夫, 堤 明純, 山口秀樹, 丸山 正治: 自治体職場へのOSHMS導入ー導入途上の状況と今後の展望ー, 労働安全衛生研究, 3(1), 11-16, 2010. 2) 渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 伊藤昭好, 原邦夫, 堤明純: 自治体職場における職場環境改善を通じた参加型ストレス対策の試み, 産業ストレス研究, 17(4), 287-295, 2010.</p>
<p>投稿者</p>	<p>渡辺裕晃 e-mail 2013年12月19日</p>